

令和 2 年 10 月 27 日

甲賀市教育委員会

教育長 西 村 文 一 様

油日学区幼保・小中学校再編検討協議会

委員長 堀 内 裕 一

油日学区幼保・小中学校再編検討協議会 報告書

油日学区幼保・小中学校再編検討協議会（以下「協議会」という）では、甲賀市教育委員会（以下「教育委員会」という）から示された『甲賀市幼保・小中学校再編計画』に対して、令和元年12月より油日学区に関係する部分の是非について協議してきました。そのまとめとして、下記の理由により、油日小学校、油日にここに園とも存続すべきであるとの結論に至りました。

記

1. 協議会では、学年が1学級の小学校と複数学級（2学級以上）の小学校の学力、教員と児童の関わり、児童間の関わり、生徒指導、学校行事、地域との関わり等の視点から、そのメリット、デメリットについて話し合いました。その中で、存続、再編、どちらにもメリット、デメリットがあるということは共通に認識できましたが、再編の必要性や合理性を共有することはできませんでした。
2. 教育委員会は、児童（園児）数の減少の観点から再編（統合）を論じておられますが、児童（園児）数の減少に歯止めがかからなければ、今統合しても再び統合問題が何年か後に浮上してくる可能性があります。地域の学校の存在は、当該地域の人口減少を抑制するための大きな要素でもあり、地域が落ち着き子育てしやすい環境を維持するための小学校の存在こそが大切なことではないかと思えます。
3. 油日小学校はビオトープを中心に据え、「エコ 夢 元気」を合言葉に豊かな自然の中で特色のある教育を展開されてきました。この規模だからこそできる手厚い学習指導により、児童の学力の向上、児童会活動を通じての自治能力の向上に成果を上げておられ、また、地域と企業、高等教育機関とのネットワークも強く、質の高い教育を実践されています。一方、地域の人々にとっては、我町の学校、地域コミュニティの核という思いが強く、災害時

の避難場所の拠点でもあります。更に、油日にこここ園が油日小学校と同じ敷地にあり、5・5交流を軸に小学校との交流も充実されており、豊かな環境の中で伸び伸びとした幼児教育・保育を実現されています。

このように、今現在、保護者・教師（保育士）・児童（園児）・地域等の密接なつながりにより、豊かな教育や保育が醸成されていると聞いています。この状況こそが子どもたちにとってよりよい教育環境であり、こうした学校や園の存続を考えていきたいと思えます。

4. 昨今、新型コロナウイルスの感染拡大を予防するための「新しい生活様式」の必要性が提唱されていますが、同じように「新しい学校生活」が大切であると考えます。今回、学校再開に当たって、油日小学校、油日にこここ園の規模だからこそ、3密を防ぐことや消毒の徹底などにおいて、丁寧で適切な指導がなされているようです。今後も、このような非常事態に対応していかなければならないということを考えると、コンパクトスクールを目指すことを検討する必要があると考えます。

以上のように、協議会では、今回提案された学校再編計画に賛成できないとする意見が多数を占めましたが、次のような意見も出されていたので追記しておきます。

幼児から思春期前期へと成長していく大変大事な小学校の6年間を、ずっと同じ構成員と学校生活を送っていくという体制は避けるべきです。単一学級では、幅広い仲間との触れ合いができず、友達関係が固定化したり、友達間の問題をずっと引きずったまま小学校を終えなければならない児童も出てくると思えます。そうしたことが、個々の児童の人格形成に及ぼす影響は小さくないと考えます。更に、学校の活性化を図ることや児童が多様な物の見方や考え方に触れることができる環境作りのためにも、各学年の複数学級化を実現できる学校規模とすべきであると考えます。

このように、協議会において様々な論点から活発な議論がなされましたが、現在の保育園・幼稚園・小学校の保育や教育および園や学校での生活環境に問題は感じられず、それらは、地域の特色を生かしたかけがえのない存在であることから、協議会としては、幼保・小学校ともに存続させるべきであるという結論に至りました。

更に、教育委員会は、再編を検討するのは子どもたちに質の高い保育や良い教育環境を提供するためとされていますが、現在の油日にこここ園・油日小学校それぞれの環境を存続させることがそれを保障するものであるという結論に達しました。

教育委員会におかれましては、今後とも、油日学区の保育・教育全般につきまして、更なるご支援、ご指導を賜りますようお願いを申し上げ、協議会の報告といたします。